

今年度の研究について

研究主任 山本 孝之

研究主題「自らが主体者となって生きる児童の育成 ～互いに議論し、学びを深める学習活動の工夫～」

本校は、昨年度まで2年間、東京都教育委員会から人権尊重教育推進校の指定を受け、研究主題を「自らが主体者となって生きる児童の育成」として、様々な場面で「自己の目的」や「人にとって大切なもの」など、目的を見いだすことについて私たち教師自身や、子供たちに問いかけながら研究を進めてきました。

来年度から完全実施となる新しい学習指導要領における「基礎的・基本的な知識および技能」「課題解決に必要な思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの資質・能力の育成に向け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の重要性が示されています。本校のこれまでの研究成果を生かしながら、自らが主体者となり生きる力を育むプロセスをより具現化していくため、学習活動の中でも子供たちが「議論する」場面に焦点を当て、今年度の研究を進めていくこととしました。子供たちが主体的に学び、互いに考えを伝え合うことでより深く考える授業となるためにはどんな手だてが必要なのか、授業実践を通して検証を図ります。

以下は、先日行った6年生の理科の授業の様子です。

【理科・6年生】 単元名「月と太陽」

<単元について>

月の形は日にちや時間帯によって変化していきます。この単元では月の見え方について、月と太陽の位置関係に着目して多面的に調べる活動を通して、月の形の変化の様子を捉え、その変化が何によって決まるのかを考えていきます。日常生活でもよく目にする月と太陽ですが、実際に観察しながら変化の様子を時間的・空間的に捉えるのは難しいため、模型の球や光源をそれぞれ月・太陽に見立て、月の形を再現していくことを学習活動の工夫の一つとして取り入れました。

<指導の工夫>

○目指す児童像

様々な情報をもとに、自分の考えを多面的に考えられる児童

○互いに議論し、学びを深める授業づくりの視点

- ・議論する必然性を見いだせる課題との出会い
- ・理科の見方・考え方を働かせて議論するためのワークシートの活用

<授業の様子>

「みなさんは、空に見える月の形を再現することはできますか。」という教師の発問から授業がスタートしました。月の満ち欠けについて再現する活動では、グループごとに活発に話し合いながら、模型や自分の位置を変える姿が見られました。「地球（自分）や月（球）の位置をどのようにしたら見たい形を再現できるのか」という話し合う必然性のある課題であったことで、自然と友達と議論しながら課題を解決しようとすることができました。

上手く再現できた時の太陽・地球・月の位置は、シールを使ってモデル図に示し、全体での検討場面で他のグループの再現結果と見比べることができるようになりました。子供たちは結果を比較することで、「ここは同じ並び方をしているよ。」「違う月の形なのに、同じ位置関係になっているものがあるのはなぜだろう。」など、太陽・地球・月の位置関係に着目した気付きが多く生まれました。話し合いを進めながら「月の見え方は、何によって決まるのか。」という新たな学習問題が生まれ、子供たちが主体的に学びを進めていく姿が見られました。



<課題解決のため、議論しながら再現活動を行う>



<意見交流の中から新たな学習問題を見いだす>